

(様式1)

令和8年度 学校経営計画

1 教育目標（校訓）

- 一、健康で明朗、教養豊かな人となれ
- 一、誠実で他人とよく協調できる人となれ
- 一、勤労を愛し、責任を重んずる人となれ

教育方針

- ア 質実剛健な校風を堅持し、逞しい気力と体力を培う。
- イ 基礎的な知識を習得し、豊かな情操を育み、技術を錬磨する。
- ウ 連帯感を育成するとともに、個性の伸張を図る。
- エ 言動に責任を持ち、社会に信頼される人格を育てる。

2 学校の特徴

- (1) 本校は、明治30年6月、高岡市立高岡簡易商業学校として創立され、本年、創立129年目を迎える歴史と伝統ある県西部の単独商業高等学校である。
- (2) 常に時代の進展に対応した商業教育の推進を目指し、地域と連携した取組と教職員の研究・努力によって、特色ある専門教育を展開している。
- (3) 「商業教育」「部活動」「地域協働」を柱に「人づくりの高商」として、将来の地域・社会を担う実践力を備えた人材育成を図っている。

3 学校の現状と課題

4つの小学科を有する商業の専門高校として、「流通・商取引・情報・金融・サービス」など、ビジネスの諸活動の基礎を学び、地域協働等の活動をとおして、ビジネスの実践力を磨き、社会で活躍できる人材の育成を目指す。基礎学力の定着と生徒の主体性を育み、学習と部活動の両立を図るとともに、人間的な成長を促し、生徒の能力・適性・進路の多様化に対応できる商業教育の推進を図る。

「現状」

- (1) 流通ビジネス科・国際ビジネス科・会計ビジネス科・情報ビジネス科の各科の目標と特色をより明確にした学習、地域協働をとおして専門的な知識や技術を身に付け、ビジネス社会で活躍する実践力を備えた職業人の育成を目指している。
- (2) 全教科をとおして基礎学力の定着とともに、体験的実践的な学習に取り組み、主体的に考え行動できる能力、課題を発見し解決しようとする能力、新たな価値を生み出せる創造力を育成し、生徒一人一人の個性や適性に応じた進路実現を図っている。
- (3) 「主体的・対話的な深い学び」に向けた授業改善、ICT機器の積極的な利活用による授業実践など、学びの質を高める取組を実践している。
- (4) 保護者・生徒の理解を得て部活動加入を推奨しており、心身の鍛錬をもとに技術を錬磨し、運動部文化部を問わず高い目標を掲げ日々の練習に真摯に取り組んでいる。

「課題」

- (1) 学習習慣の定着と、検定試験の思考力・判断力重視への対応。
- (2) 地域や関係機関と連携した、課題解決型の探究的な学習の推進や、キャリア教育を充実させる取組の推進。
- (3) 進路指導計画の全体共有と、多様化している進路希望に対応するための情報共有や適切な提供による、個別指導の充実。
- (4) 望ましい人間関係を構築する能力の向上や規範意識の醸成、課題に挑戦する意欲、精神力を育む「人間教育」の充実。

[様式2]

4 学校教育計画

富山県立高岡商業高等学校 (令和8年度)

(重点箇所: 太字)

項 目		目 標 ・ 方 針 、 及 び 計 画	
1	学習活動 重点①②	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会に貢献できる力を育むため、基礎・基本を確実に身につけることを目指す。自ら学ぼうとする姿勢や主体的に判断、行動して問題解決に結びつける確かな学力を向上させる。 ・ 魅力ある商業教育を通して、ビジネス社会で必要な知識と技術を養い、地域社会に求められる人づくりを目指す。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ① <u>チャイム(ベル)着授業を徹底、かつ開始・終了時の挨拶を徹底し、授業へのメリハリから集中力を高め、やる気を喚起する。</u> ② <u>基礎・基本の定着を重視した「分かり、興味が持てる授業」を行う。</u>そのために授業研究や互見授業を中心とした<u>校内研修の充実</u>を図る。 ③ 学習に対する意識や<u>主体的な取り組み状況</u>などを把握することにより、指導法の工夫、改善を進める。 ④ 1年次に基礎的な学力を定着させるための科目を配置し、2年次より小学科の特性に応じた専門科目を重点的に配置して専門教育の充実を図る。 ⑤ <u>基礎学力、読解力向上のための言語活動を特別編成授業時に取り入れる。</u> ⑥ 各教科科目が系統的、継続的、横断的に指導が図れるように配慮する。また、多様化する進路希望に対応するため、選択科目を配置する。 ⑦ 各教科・科目において年間指導計画を作成する。授業では1時間のねらいを明確に提示し、目標達成のための指導法を工夫する。 ⑧ <u>小学科における重点科目や資格取得目標について説明し、将来の活用方法を理解させることで学習意欲の向上を図るとともに、ICTを活用して「主体的に学習に取り組む態度」を育むための授業改善を行う。</u> ⑨ コミュニケーション能力を高め望ましい人間関係を築き、自己の能力、適性にあった職業観、勤労観を育成する。 ⑩ <u>地域企業や自治体と協働した体験的学習を通して、創造的な能力と実践的な態度を育成し、商業教育の充実を図る。</u>
3	進路支援 重点④	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校入学から卒業まで、生徒の発達の段階を考慮し3年間を見通した進路指導計画を立案し、生徒の主体的な進路選択を支援する。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ① <u>1年生は職業観の育成、2年生は個々の進路目標の具体化、3年生は個々の進路目標の実現を目標に、3年間を見通した進路指導計画(進路指導ロードマップ)を立案する。</u>また、中学校からのキャリアパスポートとの接続を図り、全学年ともに各行事等について記録を残す。 ② 生徒の主体的な進路選択の一助となるように、進路指導室に大学、専門学校の学校案内のパンフレットを自由に閲覧できるコーナーを設け、いつでも情報提供できるような環境を整える。 ③ キャリア教育とも関連付けて、生徒の職業観、勤労観を高めるための方策を考える。 ④ 在校生には「進路アンケート」を実施し、進路指導の充実を図る。

[様式2]

4 学校教育計画

富山県立高岡商業高等学校 (令和8年度)

(重点箇所: 太字)

項 目		目 標 ・ 方 針 、 及 び 計 画	
4	特別活動 重点⑤	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、部活動や地域の行事への積極的な参加を通して、豊かな情操や感性と心身ともに健康を備えた生徒の育成を図る。 ・情操豊かな人間形成を目指し、意欲的な読書活動の推進を図り、校内における学習室としての生徒の自主的な学習等を支援する態勢を整える。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒会執行部や各種委員会の活動をバックアップし、達成感や自己肯定感を持たせるとともに、学校行事・クラス運営・地域交流を円滑に行えるリーダーを育てる。更に、地域の行事に積極的に参加し、社会に参画する力の育成を図るとともに本校の取り組みを発信する。 ② 部活動を人格形成の重要な柱と位置づけ、高い目標を掲げ、課題を追究しながら主体的に活動する部活動を実現するため、キャプテンを中心とした各部部員による研修会・合同練習会等を企画し、生徒の自発的な活動を推進することにより競技力向上を図る。 ③ 図書館の蔵書の適切な更新を図るとともに、図書貸出・検索システムCASAの有効活用に努め、生徒がより利用しやすい図書館運営を目指す。 ④ 「読書の時間」が生徒の自主的な取り組みになるよう、授業やホームルームでの読書指導を徹底する。 ⑤ 生徒図書委員会の活動を活発にし、図書館情報「らいぶらりい」の発行、教養講座の開催、生徒による店頭購入など、図書館行事の充実を図る。
5	その他 (総務)	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・P T A活動の発展と充実に努め、自主的・積極的な参加を推進する。 ・同窓会および地域との連携・交流を推進し、学校教育の振興を図るとともに、信頼され親しまれる学校づくりに努める。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 保護者がP T A活動や学校行事等に積極的に参加できるよう、学校と家庭との連携を強化するとともに、本校の教育活動への理解促進に努める。 ② 同窓会員や地域・企業等の人的資源を活用し、課題研究や模擬株式会社活動、ボランティア活動等を通して、生徒の社会的視野を広げるとともに、実践的な学びとキャリア教育の充実を図る。 ③ 生徒の活動状況や学校行事(学年活動)等の教育情報について、ホームページやインスタグラム等を活用した迅速な発信に加え、同窓会誌「双龍」及びP T A会誌「龍骨」の発行を通して、継続的かつ多角的な情報発信に努める。

(様式3)

学校アクションプラン 富山県立高岡商業高等学校 (令和8年度)

令和8年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動1 (教科指導)	
重点課題	基礎学力の向上と生徒が主体的に取り組める授業実践	
現 状	生徒の興味・関心や学習に対する意識、学力などが多様化しており、学習への取り組み方や理解度、定着状況に差が表れており、特に読解力に差が大きい。一方、社会が求める人物像や新しい学力観に向け、生徒が主体的・対話的に学び、自ら学習を深めるための授業実践を推進することで、学習意欲を高め、基礎学力を定着させることが必要である。また、そのような授業実践などの取り組みのための教員研修が不足している。	
達成目標	主体的に授業や課題に取り組めた割合 (「学習ふりかえりシート」を活用し、自己の取り組み状況を確認し、意欲的な学習活動ができたかを調査)	校内研修(研究授業、互見授業)における授業を実施した回数、授業を参観した回数、研究協議に参加した回数
	85%以上	計4回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">・1, 2学期末に「学習ふりかえり WEEK」を設定し、「学習ふりかえりシート」を用いて学習に対する取り組み姿勢などの学習活動をふりかえる時間を確保する。また、生徒の主体的に取り組む姿勢を改善させるための契機とするため、振り返りシートの結果は職員に情報共有し、授業改善に役立てる。・学習意欲を喚起させるため、年5回の定期考査前に教務通信「Study Navi」を生徒に配布し、意欲的に取り組めるよう生徒手帳に追加した学習計画を立案させる。・全ての教科に共通する語彙力向上のため、毎学期の特別編成授業時に国語科で漢字学習に関する講座を行う。・年2回の校内研修期間を設定し、ベテラン教師からも若手からも互いに学びあえるよう可能な範囲(通年で全教職員対象)で研究授業や互見授業を実施する。見学者からは率直な意見や感想が得られるよう「見学カード」を工夫するなどして、授業改善に役立てる。また、年次研修者へは、研究協議を実施し授業改善につなげる。	

(評価基準 A: 達成できた B: ほぼ達成できた C: 達成できなかった)

令和8年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 2 -		
重点項目	学習活動2 (検定指導)	
重点課題	ICTを活用した主体的な学びの実践と実社会に生きる商業教育の充実	
現 状	商業科目の各専門分野に関する基礎的・基本的な知識、技術及び技能の定着を図ることを指導目標としている。小学科ごとに資格取得目標を掲げ、学習理解の到達度を確認するとともに、地域企業や自治体と協働した課題解決型学習を通して将来の役に立つ商業教育を充実させ、生徒の満足度を高めるようにしている。	
達成目標	1・2年生 教員がICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改善を行い、生徒が「自ら課題をみつけて取り組めた」と肯定した割合	3年生 学校で学んでいること(商業教育)が、「将来、社会に出たときに役に立ちそう」と肯定した割合
	60%以上	70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">・生徒に各学科の目指すべき生徒像や、重点科目、取得資格目標について説明を行い、将来の活用方法を理解させることで、生徒の主体的な学習意欲を引き出し、自らの学習を調整できるよう指導方法を工夫する。・理解した学習内容を、生徒同士で協働しながら学習を深めたり、プレゼンテーションする場を設けるなどして、理解した知識を言語化したり人に伝える力を育むことで、より理解が深められるよう指導方法を工夫する。・ICTを活用することで、情報の可視化やリアルタイム共有、フィードバックの高速化を実現し、自ら課題を見つけ、学びをデザインさせる。・地域企業や自治体と協働して商品開発や販売活動を行い、商業教育で学んだことを実践で身に付けるとともに、プロの視点からフィードバックを受ける機会を作る。	

(評価基準 A: 達成できた B: ほぼ達成できた C: 達成できなかった)

(様式3)

5 今年度の重点課題 (学校アクションプラン)

富山県立高岡商業高等学校 (令和8年度)

令和8年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 3 -	
重点項目	学校生活 (生徒指導)
重点課題	交通安全意識の向上と交通ルールの遵守
現 状	近年、本校生徒の交通事故件数は増加傾向にある。令和5年度は13件だった自転車事故件数は、令和6年度に26件と倍増した。令和7年度には僅かに減ったものの、年間で20件の件数であった。本校生徒の約74%が登下校で自転車を利用していることもあり、事故が発生するリスクは潜在的に高いと思われる。その中でも事故件数が多い場所は、高岡駅から本校までの通学路であるため、「ヒヤリ・ハットマップ」の作成や月例の交通安全指導(1日と15日に実施)等によって、生徒への危険個所の周知を行うとともに、注意喚起を促しながら交通安全意識の向上に努めている。また、今年度より改正道路交通法が施行され、自転車の違法運転にも青切符制度が導入されたため、これまで以上に生徒への指導及び注意喚起を徹底する必要がある。
達成目標	自転車事故件数 昨年度比25%減 年間を通じて15件以下(昨年度は20件)
方 策	<ul style="list-style-type: none">・交通事故の未然防止の観点から、教育活動全般において、生徒自身が基本的な生活習慣を見直し、時間に余裕を持った行動を心がける事で、日頃から落ち着いて行動をとれるよう指導する。・毎年9月に実施していた自転車一斉点検を4月に実施し、自転車の点検および整備不良による事故の未然防止につなげる。また、9月の実施についても検討する。・月例の交通安全指導(1日、15日)では、新たな取り組みとして生徒指導部の教員が高岡駅方面に出向き、事故の未然防止を呼び掛ける。また、生徒会やPTA・警察ともタイアップした啓蒙活動を展開することにより、交通安全意識の向上に努める。・令和8年度版の「ヒヤリ・ハットマップ」を作成、掲示し、過去に事故が発生した地点や生徒たちが日頃から危険を感じている場所の情報共有を図る。・交通安全教室を実施し、自転車ヘルメットを着用することの意義や効果を指導するとともに、その着用を積極的に推奨する。・自転車の青切符制度について、全校集会や交通安全教室等の折に周知し、年間を通じて道路交通法の遵守徹底と交通安全に対する意識の向上を図る。

(評価基準 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:達成できなかった)

令和8年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 4 -	
重点項目	進路支援 (進路指導)
重点課題	1年次から3年次まで3年間を見通した進路指導計画の立案
現 状	進路指導部では、進路希望調査や進路ガイダンスの実施、過年度生の資料をまとめた「進路の研究」を作成し、3年生に配布している。またクラス担任は、年間3回以上の個人面談を実施し、将来の進路について生徒に考えさせ、それに対する助言をする機会を設けている。しかし、「進路選択」という全体の流れの中でそれぞれの位置づけや役割が、生徒にも教員にも明確になっていないと考えられる。入学から卒業まで、3年間を視野に入れたバランスのとれた進路指導計画を作成する必要がある。
達成目標	1・2年生 3年生 進路に対する満足度 学年・クラスで実施する進路学習の時間 (就職内定企業・進学予定校) 各学年 7月3時間以上 3月3時間以上 3年生:95%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">・1年生では職業観の育成を目標に、2年生では個々の進路目標の具体化を目標に、7月と3月の特別編成授業の期間を中心に進路学習の時間を計画する。実施の際には、進路指導計画全体における当該行事の位置づけ・その後の見通しが、生徒にも教員にも明確になるように工夫する。また中学校からのキャリアパスポートとの接続を図り高校でのキャリアパスポートとして記録に残していく。・進路指導計画(進路指導ロードマップ)を教職員だけでなく全生徒にも配付し、本校における進路指導計画を明確にする。・進路ガイダンスや外部講師招聘等を活用し、進路実現に向けた指導だけではなく、キャリア教育とも関連づけながら適切な職業観を身に付けさせる。・早期に進路目標を定められるように学年や商業科とも連携を図り、進路実現に向けた取り組み(高度な資格取得のための指導、小論文対策や面接講座を前倒しで実施するなど)を行う。・就職指導は試験前の事前対策講座が中心であったが、採用内定後の事後指導も行う。・3年生は、個々の進路目標の達成が重要となるため、就職者、進学者、それぞれの希望に合ったガイダンス・特別講座等を計画する。・就職内定先・進学予定校が決定した時点で、アンケート等により実態把握と意識調査を行う。

(評価基準 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:達成できなかった)

(様式3)

5 今年度の重点課題 (学校アクションプラン)

富山県立高岡商業高等学校 (令和8年度)

令和8年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 5 -	
重点項目	特別活動
重点課題	部活動において精神的な成長と競技力の向上
現 状	本校は、部活動を人格形成の重要な柱として位置づけている。各部がスポーツ庁のガイドラインや県の方針を踏まえた部活動の在り方を検討し、高い目標に向かって課題を追求しながら自発的な活動を行い、合理的・効率的に工夫した練習を行っている。部活動での目標の共有化を図り、参加意義を明確にし、成就感・達成感を味わい、心の成長が感じられることを目指す。
達成目標	部活動を通して心の成長と競技力の向上を感じる生徒の割合 90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">・本校における部活動と中学校の部活動や地域クラブでの取り組みの違いをしっかりと認識、理解させ、生徒が主体の活動を推進し、人格の形成を図る活動をさせる。・部活動指導員、特別活動指導員、テクニカルエキスパートや各部のOB等からの協力を得ながら、充実した部活動になるように工夫する。・キャプテン会議やリーダー研修会を開き、リーダーとしての資質を高める。・生徒の活動の成果を発信し、達成感を感じさせる活動を展開する。・スポーツ庁及び県の方針に従いながら、県内外の強豪校と練習する機会を積極的に設け、技能の向上を図るとともに意識の高揚に努める。

(評価基準 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:達成できなかった)